

生き物好き発掘！身近な自然の危機を察知できる人材を増やすための取り組み

活動地域 福岡県

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

累計来場人数 **1,800**人

サイエンスカフェ **1**回

今年度計画の達成度 **20**%

目標達成度 **50**%



近隣の小学生向けに実施したワークショップ

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大が収まり、予定プロジェクトの準備を進めた途端、再び緊急事態宣言が発令され、中止となるのが再三あり、モチベーションを保つことがとても難しかった。

■ 工夫した点

直接のコミュニケーションを重要視し、あえてオンラインのみのイベントについては実施しなかった。

課題

だれにも知られないまま消えてゆく自然や生き物を少しでも減らす。自然との関わりを持てる人材を増やす。

目標

様々なコンテンツを提供し「自然を観る目」を持つ人材を増やす。そのような人物が増えることで危機を察知される自然も増加すると仮定し、間接的な自然保護の実現を目指す。

活動内容と成果

生き物への関心を高めるための多目的施設「バイオフィリア」を運営し、千冊以上の蔵書がある「生き物ブックカフェ」など様々なコンテンツを提供している。今年度は、「到津市民センター」「日本カブトガニを守る会」「地球環境基金若手PL研修成果発表会」など参加者が限定的なコラボイベントを実施した。また、稲作と地域の生物多様性が共存できるかをテーマにした湿地整備と農業体験イベントの実施と、お米の活用その他、地元河川で近年自然下絶滅したタナゴの調査保全についても研究結果を報告した(2022年4月実施予定)。



若手PL報告会成果報告会を当施設で実施

全助成期間の活動を振り返って

これからという時期に新型コロナウイルス禍となった。思うようにイベントは実施できなかったが、それでも、多くの方に施設にカフェとして足を運んでいただき、お話しすることができた。なかでも、近隣住民の中にこんなもたさんの生き物好きがいるのか！と驚くばかりだった。この生き物は何だ？という疑問や進路相談など様々相談もあり、「あそこのカフェのおじさんに聞いてみよう」という気軽に生き物相談ができる場所を創出できたと感じる。



包装は参加者が制作商品化で活動をPR

〒803-0814
福岡県北九州市小倉北区大手町2-12
電話：093-287-0517
E-mail：gyobu.subsidy@gmail.com
HP：https://gyobu.or.jp/



今後の展望

まずは、完全な自走化をさせること。そして、この場所が起点となり、利用者同士で新たな自然に関する活動が自然発生してほしい。この報告書を書いている最中、新任の水族館職員と長年カブトガニの保全をしている方が、偶然この施設で出会い、干潟の生き物話に花を咲かせている。少しずつではあるが、ステークホルダー同士を繋げるハブのような施設になっていけたらと思っている。